

令和 2 年 5 月 18 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02667

研究課題名(和文) ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討

研究課題名(英文) Semantic analysis of basic German vocabulary based on collocations and its description in the German-Japanese dictionary

研究代表者

井口 靖 (Inokuchi, Yasushi)

三重大学・教養教育院・教授

研究者番号：90151638

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：従来から語の意味分析はたいていの場合、研究者の内省またはインフォーマントに基づいて行われてきたが、今日ではコロケーション分析が自動的に行われる大規模コーパスも利用できるようになった。この研究では、コロケーションに基づいてドイツ語基礎語彙の意味だけではなく、その類義関係や多義関係を分析した。コロケーションの分析により語同士の意味関係をより科学的に探究することができた。そして、その情報を独和辞典の記述に取り込む提案を行い、いくつかの例を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この研究では大規模コーパスに基づき、ドイツ語の基本語彙のコロケーションを調査することにより、これまで特に母語でない言語の意味研究を行う際に生じる困難さを克服でき、語の意味分析だけではなく、その語の多義性の分析及びその語の類義語との意味の差異などを探求できることを具体例を通して明らかにした。これらにより得られた情報を独和辞典に取り入れることにより、その記述の質が飛躍的に進歩することが期待され、それは学習上、実用上も大きな意味を持つ。今回の研究はその先駆けとなるものである。

研究成果の概要(英文)：For years the semantic analysis of words was based primarily on the intuition of researchers and informants. Nowadays, we can use extensive corpora with automated collocation analysis. In the present research, we analyzed on the basis of collocations not only the meaning of basic German vocabulary but also its synonymy and polysemy. Through the analysis of collocations we were able to investigate the semantic relations between the words more scientifically. We propose ways of integrating the information into the German-Japanese dictionary and show examples.

研究分野：ドイツ語学 意味論

キーワード：独和辞典 コロケーション コーパス 多義語 類義語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

語を単に組み合わせても自然な文が作られるわけではない。母語話者は語を単独ではなく、語と語の慣用的な結びつきであるコロケーションで記憶し、活用していると考えられる。コロケーションは単なる語と語の偶然的結びつきとされることもあるが、共起可能な語群の意味分析から特定の意味領域との相性の問題として捉えることができる場合がある。たとえば、スタッブズ(2006:61ff.)は英語の動詞 cause は「ほぼ常に、不快な意味を持った語と共起する」としている。ドイツ語においても verursachen (引き起こす) は Schaden (損害), Brand (火事), Unfall (事故), Problem (問題) 等ネガティブな意味の名詞と共起する。これは母語話者の中に意味的結びつきがある程度パターン化され、蓄積されている可能性を示している。しかし、このような意味的結びつきが辞典に明確に記述されている例は少なく、ここに研究及び辞典記述改善の余地が大きく残されている。近年、ドイツ語においても大規模コーパスが充実したことから、非母語話者でもこのような結びつきの分析が可能となっている。また、日本語では verursachen にあたる「引き起こす」が「感動を引き起こす」のようにポジティブな名詞と共起できることから、独和辞典では上記のような意味的結びつきの記述は特に重要な意味を持つてくる。スタッブズ(2006)は「実際に使用されている言語の大部分は、拡張語彙意味単位(extended lexico-semantic unit)で成り立って」(p.129)おり、コロケーションはそれを構成する「中心語と共起語との関係」(p.117)であるとす。この拡張語彙単位は固定慣用句のようなものではなく、「意味スキーマ」として機能し、「語彙(中心語と共起語)」、「文法(連辞的結合)」、「意味(特定語彙領域に属する語を選択する傾向性)」、「語用(暗示的意味や談話的韻律)」の4つにモデル化できるとする(p.129)。このうち「意味」はたとえば commit が「社会的に非難される犯罪・行為・犯罪行為」で特徴づけられる語句と共起することなどを言うとし、「語用」の「談話的韻律」というのは「話者の態度」に関わるもので、上の cause との共起や provide が help, money, food など「人間が必要とする価値のあるもの」を表わす語と共起することなどを指すとしている。本研究ではこれらコロケーションの明示的・暗示的・談話的意味上の関連を「意味的関連性」と呼ぶことにした。

平成 21~24 年度科学研究費補助金「ドイツ語テキスト及び文における語彙出現予測分析とその和独辞典・教材への応用」(研究代表者:井口靖)においては、発話を理解するための予測という観点から大規模コーパスに基づきコロケーションの調査・分析を行い、「意味的関連性」の探求の必要性を提示した。これに基づき今回の研究はドイツ語基礎語彙のコロケーションを具体的に調査し、その結果を独和辞典の記述に反映させることを提案するものである。

2. 研究の目的

実際のコミュニケーションの場ではコロケーションが大きな役割を果たしていることが注目されている。独和辞典においてもそれに注目し、適切な情報を提供すべきであろう。

従来、語の意味の分析は研究者の内省またはインフォーマントに基づいて行われてきたが、今日では大規模コーパスが利用でき、また、自動的にコロケーションを分析する機能も提供されている。これを利用することにより内省またはインフォーマントに頼ることなく、より客観的に意味分析を行うことが可能となった。

本研究では、「理想の独和辞典」を目指す立場から次のことを目的とした。

- (1) コーパスデータを活用してドイツ語基礎語彙を中心語としたコロケーションを収集する
- (2) 共起関係の異なりの点から類義性や多義性を含めたコロケーション内の「意味的関連性」を分析する
- (3) コロケーションの中心語の意味を検討する
- (4) その成果を取り込む形での辞書記述の改善の提案を行う

3. 研究の方法

コーパスデータに基づきドイツ語基礎語彙のコロケーションの「意味的関連性」を明らかにし、成果を独和辞典に取り込むため、以下の手順で研究を進めた。

- (1) ドイツ語基礎語彙の確定及び対象語とその類義語の選定
- (2) 分担者による動詞、名詞、形容詞、副詞を中心語とするコロケーションの調査・分析
- (3) 全員によるコロケーションの「意味的関連性」の検討
- (4) 対象語の意味分析
- (5) 「ドイツ語基礎語彙独和辞典」の試行版の作成及び「理想の独和辞典」の提案

4. 研究成果

本研究の成果は次の報告書(A4 173 ページ)にまとめた。ここではその概要を記す。

井口靖・黒田 廉・恒川 元行・成田 克史・カン ミンギョン

『ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討
理想の独和辞典を目指して』

科学研究費補助金(基盤研究(C))2016-2019年度 課題番号:16K02667) 報告書

内容

コロケーションに基づく多義性及び類義性の分析とその辞書記述 (井口 靖) 5-92
コーパス利用によるドイツ語動詞のコロケーション記述改善の可能性 (黒田 廉) 93-105
コロケーション辞典における名詞記述の比較と分析 (恒川元行) 106-144
独和辞典における用例について (成田克史) 145-154
コロケーションとしての構文分析の試み 形容詞 kaputt を伴う不変化詞動詞と結果構文を例に (カン ミンギョン) 155-172

はこの研究全体を包括的に記述したもので、以下のような内容となっている。
まず、大規模コーパスを用いてコロケーションに基づき意味分析を行う利点と問題点を指摘する。第1章では、実際にコーパスを分析し、共起語から lesen と「読む」、laufen と「走る」、schwer, sicher などの多義性を分析する。そしてそれらを辞典に記述する際に、どれを基本語義とするのか、どのように語義区分するのか、語義の順序をどうするのかなど具体的問題を検討する。第2章では時間関係副詞の一部について共起関係の違いから類義語の意味の違いを考察し、それを実際に辞典に取り入れた場合の実例を示す。

0. コーパスの規模とその分析・活用

1. 多義語分析

1.1. 多義の型

1.2. 多義のレベル

1.2.1. 準語義

1.2.2. 多義と比喻

1.2.3. 基本義 (中心義)

1.3. コロケーションに基づく多義語分析

1.3.1. 多義の構造 - 「読む」と lesen の例から -

1.3.1.1. 「読む」の多義性

1.3.1.2. 「読む」の多義性の構造

1.3.1.3. lesen の多義性の構造

1.3.1.4. 基本義と全体義

1.3.2. コロケーションに基づく基本義の抽出

1.3.2.1. 「走る」と laufen における基本義の抽出

1.3.2.2. schwer における基本義の抽出

1.3.3. 語義の区分

1.3.3.1. safe と sicher の語義の区分

1.3.3.2. 【補足】話し手の確信を表す sicher

1.4. 多義語の辞典記述

1.4.1. 語義の順序

1.4.1.1. 頻度と語義関係

1.4.1.2. 前置詞と da[r]-副詞

1.4.2. 辞典における系統的語義記述

1.4.3. 受信型と発信型の辞典

1.5. 【補足】コロケーションと意味の変容

2. 類義語分析

2.1. 副詞的修飾成分

2.2. コロケーションに基づく起動への時間量僅少所要型ドイツ語副詞の分析

2.2.1. 「突然」系

2.2.2. 「すぐに」系

2.3. 独和辞典における類義語記述の試み

3. 最後に

は独和辞典の動詞の記述を sich ereignen, arbeiten, reiben, ändern などについて調査し、その問題点を指摘するとともに、コロケーションの調査によりその改善の提案を行うものである。

は、ドイツ語の名詞 Abend, Abfall, Brot, Computer, Hund, Hut などについてドイツ語としては初めてとなる Quasthoff(2010), Buhofer(2014)のドイツ語コロケーション辞典の記述を、大規模コーパス DWDS や Duden:Das Stilwörterbuch(2017)とも比較しながら、分析する。

は独和辞典の用例を調査し、ausfüllen, erwarten, rufen, messen, Bestand に関する句例と文例、実例の効用、ドイツ語学習における語彙習得、印象に残る例文という観点から問題点を指摘するとともに、独和辞典における用例のあり方を提案するものである。

は、コロケーションとしての構文分析の試みの一つとして、形容詞 kaputt がどのような動詞と結びつき、どのような不変化詞動詞および結果構文を形成するか、またそれらが実

際どのように用いられているかを、コーパス調査の結果をもとに記述する。それとともにコーパスに基づくコロケーション分析の問題点を考察している。

【参考文献】

Duden. *Das Stilwörterbuch*. 10., überarbeitete und erweiterte Auflage. Berlin. 2017.

Buhofer, Annelies H. et al. (2014): *Feste Wortverbindungen des Deutschen: Kollokationenwörterbuch für den Alltag*. Tübingen.

Quasthoff, Uwe (2010): *Wörterbuch der Kollokationen im Deutschen*. Berlin.

スタッブズ, マイケル (2006) 『コーパス語彙意味論 語から句へ』(南出 康世、石川 慎一郎監訳 研究社)

【コーパス】

DWDS: <https://www.dwds.de/>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 井口 靖・恒川 元行・成田 克史・黒田 廉・カン ミンギョン	4. 巻 4
2. 論文標題 コロケーションと独和辞典の記述 コロケーション活用の可能性と限界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 三重大学教養教育院研究紀要	6. 最初と最後の頁 73-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 恒川 元行	4. 巻 41
2. 論文標題 コーパスを用いたhammer複合形容詞の調査（研究報告）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州大学大学院言語文化研究院『言語文化論究』	6. 最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 恒川 元行	4. 巻 42
2. 論文標題 コーパスを用いたHammer複合名詞の調査（研究報告）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州大学大学院言語文化研究院『言語文化論究』	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 69
2. 論文標題 独和辞典の重要語彙の比較	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 195-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井口 靖 / 恒川 元行 / 黒田 廉 / 成田 克史 / カン ミンギョン	4. 巻 第3号
2. 論文標題 ドイツ語におけるコロケーション分析とその辞典記述の問題点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三重大学教養教育機構研究紀要	6. 最初と最後の頁 51-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 第67号
2. 論文標題 コーパスに基づいた辞書の用例記述のための小規模調査	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 141-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 第1号
2. 論文標題 学習辞典における重要語とは? ドイツ語の場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 富山大学人文学部 編 『人文知のカレイドスコープ』 富山大学人文学部叢書	6. 最初と最後の頁 107-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恒川 元行	4. 巻 第39号
2. 論文標題 ドイツ語コロケーション辞典の試行的比較	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 九州大学大学院言語文化研究院 『言語文化論究』	6. 最初と最後の頁 67-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井口 靖	4. 巻 2
2. 論文標題 コーパスに基づく多義語の分析 - 日本語「読む」とドイツ語のlesenを例として-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 三重大学教養教育機構研究紀要	6. 最初と最後の頁 53-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 13
2. 論文標題 独和辞典の重要語指定と頻度	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本独文学会北陸支部『ドイツ語文化圏研究』	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 恒川 元行	4. 巻 第43号
2. 論文標題 DWDSコーパスを用いた強意複合形容詞の調査 (1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 九州大学大学院言語文化研究院『言語文化論究』	6. 最初と最後の頁 61-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田 廉	4. 巻 71
2. 論文標題 頻度からみた学習独和辞典の文型 - arbeitenを例に -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 富山大学人文学部紀要	6. 最初と最後の頁 155-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井口 靖
2. 発表標題 モダリティを考え直すー ”ほんとうに ” 話し手の心的態度の表現なのかー
3. 学会等名 京都ドイツ語学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 カン ミンギョン
2. 発表標題 形容詞を伴う不変化詞動詞と結果構文：形容詞kaputtを伴う場合を例に
3. 学会等名 ワークショップ「構文の使用と意味」（東北大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 恒川元行
2. 発表標題 拡大形造語（Augmentativbildungen）について - 特にアクセントの特徴の点から -
3. 学会等名 日本独文学会西日本支部
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

井口靖・黒田 廉・恒川 元行・成田 克史・カン ミンギョン『ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討 理想の独和辞典を目指して』(科学研究費補助金(基盤研究(C))2016-2019年度 課題番号:16K02667)報告書)
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	恒川 元行 (Tsunekawa Motoyuki) (70197747)	九州大学・言語文化研究院・学術研究者 (17102)	
研究分担者	成田 克史 (Narita Katsufumi) (40128202)	名古屋大学・人文学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	黒田 廉 (Kuroda Kiyoshi) (00313578)	富山大学・学術研究部人文科学系・教授 (13201)	
研究分担者	カン ミンギョン (Kang Minkyong) (30510416)	東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授 (11301)	